

〈研究ノート〉

太宰府周辺地域における観光文化 — 住民意識と在住大学生の意識調査 —

吉 川 道 雄

はじめに

太宰府は一千三百三十年程の昔“遠^{とお}の朝廷^{みかど}”と呼ばれ西日本の政治、経済、文化の中核地域として、また大陸文明とのクロスロードとして栄えたわが国を代表する歴史的な文化都市の一つである。特に太宰府政庁時代に花開いた仏教文化や万葉文化は太宰府周辺地域に数多くの文化的遺産としていまも点在している。そしてこの度決定した日本最大で、世界的にも有数の規模を誇る「九州国立博物館（仮称）」の建設は太宰府を新たな観光文化歴史都市として、また東アジア最大の学術都市として脚光を浴びることになる。

太宰府が今日まで育んできた文化および自然と歴史的環境、そして文化的欲求の高い市民意識に裏打ちされた学園都市太宰府には数多くの大学、短大、各種学校があり学生数は年々増加する傾向にある。また太宰府天満宮と菅原道真は学問の神様として修学旅行に受験合格祈願にと各地からの参拝客も数多い。ここでは、このような現在の背景のもとで太宰府と観光文化、また太宰府周辺地域と九州国立博物館建設のあり方について観光的視点からとらえ問題提起をすることを目的にする。なおこの論は第一経大論集で発表した「21世紀における太宰府周辺地域の観光の展望と観光コンフリクト」(注1)を補うものである。

1-1 太宰府周辺地域

那の津（博多湾岸地方）は壱岐、対馬と島伝いに朝鮮、中国に渡る基地として、また日本の玄関口として重要な位置をしめていた。宣化天皇元年（536）

には官家（みやけ）が現在の福岡市三宅におかれた。この役所は九州全体と壱岐、対馬を治めさらに軍事・外交を司る役所でその長官を筑紫・太宰と呼んだ。その後天智天皇の百濟救援軍は白村江の戦いで惨敗したために、官家を後方に移動したことから始まる。（図－I）

官家（太宰の府）を大野山（四王寺山）の南麓（図－I中のB）に移し太宰府とし役所を都府楼といい、そしてこの太宰府を守るために大防衛線が構築された。それは日本の対外防衛線としてまた防衛施設として日本史上いまだかつてない大規模な構である。その地域は大野城（大野城市）－水城①－小水城②③④⑤－天拝山山地（筑紫野市）－基肆城（市）－小水城にわたる。なかば包むように太宰府が構築されている。この地域を太宰府周辺地域とここでは限定する。

1－2 太宰府周辺地域の現況

福岡県の西北部寄りにあり、福岡都市圏に含まれ、福岡市の南西約15kmに位置する。人口は太宰府市筑紫野市を合わせて約13万人（平成5年度）。福岡市のベッドタウンとして、また学園都市として豊かな自然環境の中に数々の歴史的遺産が点在する。

太宰府天満宮を中心に観光客は年間約820万人（平成4年度太宰府観光案内所）が訪れる。また市外からの短大・大学は8校、学生は約16000人（平成5年度学校基本調査）となっている。

1－3 観光文化と市民意識調査（関係資料添付）

太宰府市では1994年「文化の振興に関する市民意識調査」を実施1995年7月「太宰府市政だより」で調査の全体集計と分析・評価の結果を公表した。

1042サンプル、男性44.2% 女性55.8%

①余暇活動、文化活動

日常の過ごし方：平均的なサラリーマン型となっている。

充実感、生きがい：家族との団らん、趣味やスポーツ、休養、仕事

文化・スポーツ活動への参加：図参照

今後やりたい活動：旅行、外食、スポーツ、けいごと、創作、読書
余暇活動や文化活動がやりにくい要素：時間がない、情報不足、費用
公共施設：利用率が低い

市主催の行事：イベント参加率非常に低い

②文化財の保護と活用

重要な文化財の知名度：よく知られていない

文化財の活用：市民に身近な形での取り組みが求められる

③文化の振興

今後力を入れてほしいこと：これ以上自然環境が壊されないように

充実してほしい文化施設：美術館、博物館、スポーツ施設、文化ホール、
情報センター

望ましい行事、イベント：直接生活に密着した朝市、不良品交換会等

④文化振興の将来ビジョン：歴史的遺産を生かしながら、同時に現代の文化を
重視する

⑤むすび 問題点

市民の意向を取り入れていくシステムの確立

歴史的遺産の保存、整備だけでなく、それを市民生活のプラスになる方向で
活用する

市民生活全般の文化的向上を目指す

2-1 太宰府周辺地域在住大学生の観光意識調査

(1) 調査の目的

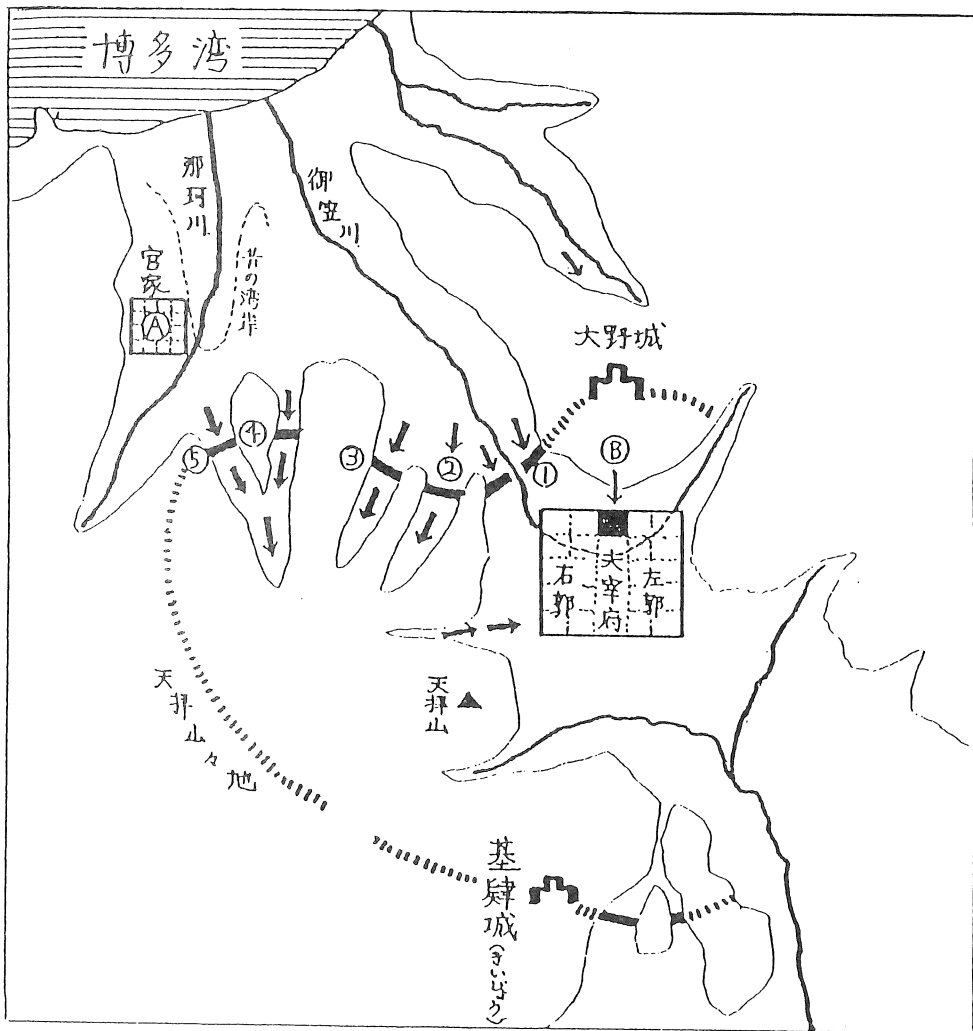
太宰府周辺地域を魅力ある観光地としての“あるべき姿”を学生の観光
行動の実態を通して模索し示唆しようとするものである。

(2) 調査の方法

第一経済大学在学学生を対象に選んだ。

学生の観光行動の実態を把握するために10の設問を用意した。

図一 I 太宰府の大防衛線



水城跡（太宰府教育委員会1995）及び太宰府観光地図（太宰府観光協会1995）を基に作図

ゼミ学生はアンケート用紙を回答者へ直接持参し、説明した後直ちに記入してもらう方式を採った。

アンケート調査は平成7年10月2～4日(3日間)に行い79のサンプルを得ることができた。

(3) 評価

各設問の評価は二者択一方式を採り明快な回答を求めた上に、記述により個々の意見を参考にできるようにした。

問1. 太宰府のもつ自然環境は優れていると思いますか？

Yes 78.5% No 20.3%

太宰府周辺地域は、山頂に神武天皇の御母王依姫命を祭っているかまじ竈門神社の上宮がある宝満山、菅原道真ゆかりの天拝山、四王寺山、高雄山に囲まれ身近なスポットとしてまた自然公園として良く知られている。アンケートでは3名が宝満山登山の経験を報告している。

宝満山登山はRKBラジオ放送主催の山頂おしるこ登山大会もあり福岡県民はもとより近県でも知名度は高く、標高869メートルで老若男女いづれも手軽に登山できるコースが用意されている。

問2. 太宰府はスポーツやレクリエーションを楽しむのに施設や立地条件の上で優れていると思いますか？

Yes 32.9% No 65.8%

太宰府及びその周辺地域でのスポーツ・レクリエーション施設の主なものとしては、下記のものがある。

- ①みゆきスポーツプラザ
- ②みゆきスポーツランド
- ③太宰府梅林アスレチックスポーツ公園
- ④太宰府少年スポーツ公園
- ⑤太宰府歴史スポーツ公園
- ⑥太宰府ゴルフクラブ

このように太宰府周辺ではスポーツ・レクリエーション施設は充実しているといえるが、しかし学生にとっての評価が低い結果となっている。設備においても古いわけではなく、とくに太宰府梅林アスレチックスポーツ公園は95年4月のオープンで総工費約19億3000万円の規模を誇っている。

問3. 太宰府はホテルや旅館・民宿・国民宿舎など宿泊施設が多いと思いますか？

Yes 22.8% No 77.2%

博多の奥座敷として栄えた二日市温泉は昭和30年代には旅館34軒、昭和46年には24軒そして平成7年には11軒と減少してきた。しかし「大丸別荘」「大観荘」の大規模旅館と9軒の小規模旅館は学生からは忘れ去られた魅力のない温泉街となっているのだろう。

問4. 太宰府は全国的に有名だと思いますか？

Yes 92.4% No 07.6%

学生にとって太宰府は受験祈願の神様であり、菅原道真、万葉集であり日本史である。また修学旅行の訪問先でもある。また年末年始の参拝客を合わせ年間800万人を超える観光客が訪れている。

問5. 太宰府は各観光スポットへのルートが発達していると思いますか？

Yes 40.5% No 57%

太宰府を太宰府天満宮とした場合のアクセスは、西鉄の電車を利用すれば問題はない。しかしJRを利用した場合のアクセスには無理がありまた太宰府地域内のルートは利便性に富んでいるとは決していえない状況にある。

問6. 太宰府の人々がつくり上げてきた風俗や文化は優れていると思いますか？

Yes 83.5% No 15.2%

太宰府天満宮、政庁跡や数多くの歴史的遺産のある街、学園都市のイメージが定着しているものと考えられる。

問7. もし四王寺山にロープウェイがあれば利用してみたいと思いますか？

Yes 58.2% No 40.5%

四王寺山は県民の森として数多くの特別史跡跡がありまた山頂には展望台もありハイキングに散策にまたドライブにと手軽な憩いの場として地域の人々に人気がある。この地にロープウェイがあれば観光周遊ルートが大きく変化するとの認識から設問をした。

問8. あなたは二日市温泉を利用したことがありますか？

Yes 35.4% No 64.6%

太宰府周辺地域随一の温泉である二日市温泉の利用度が低い結果となった。

ヤングから老年まで全国的な温泉ブームの中で湯量湯質また歴史的にも由緒のある二日市温泉が、である。

問9. あなたは太宰府及びその周辺の観光地でどこに行ったことがありますか？
二つ以上書いて下さい。

- | | |
|--|-------|
| 1. 太宰府天満宮 | 75.9% |
| 2. 太宰府政庁（都府楼）跡 | 21.5% |
| 3. 二日市温泉 | 12.7% |
| 4. 四王寺山 | 06.3% |
| 5. だざいふえん 6. 宝満山 その他、観世音寺、竈門神社、九州歴史資料館、武蔵寺、水城跡、天拝山 | |

問8では35.4%二日市温泉を利用したことがあるとの回答が寄せられているが学生にとって二日市温泉は観光地としての魅力がないのかもしれない。

問10. あなたは九州国立博物館が来年（平成8年）秋から太宰府に建設予定であることを知っていますか？

Yes 26.6% No 69.6%

世界的にも大規模な国立博物館となる九州国立博物館（仮称）の誘致運動は1964年頃から九州各県が一体となり推進してきた。太宰府市民は無論のこと周辺地域市民にとっても重大関心事であることから市広報紙や

様々なイベント、コンベンションがかなりの頻度で開催されている。しかるに学生にとって関心事となっていない。

主な「声」

- (1)スポーツ系の施設と文科系の施設が離れすぎている。
- (2)道路が狭い。歩道の段差がありすぎて車椅子や自転車がたいへん困っている。
- (3)JR博多駅を利用する人にとって西鉄太宰府駅へは不便である。
- (4)遊戯または娯楽の施設が少ない。飲食店が遠くて少ない上に深夜営業は皆無に近い。
- (5)JR二日市～西鉄二日市～大学～天満宮を乗り換えなしで行けるバス路線が無い。私はJR二日市から大学まで歩いて通学している。
- (6)道幅が狭いうえにすぐ混雑するし、大型トラックが多くしかもスピードが早い。3号線南バイパスの排気ガスがひどい。
- (7)天満宮だけが有名で他の観光地、施設が思い浮かばない。
- (8)二日市温泉はいまいちパツとしない。
- (9)駐車場が少なく高い。
- (10)政庁跡は美しく壮大である。

3-1 分析と評価

問1. 自然環境度について。

この地域は四王寺山市民の森、天拝山歴史自然公園、大野城いこいの森、宝満山一帯の森林自然公園、高雄山に囲まれそしてそれぞれは自然の中に歴史的遺跡が数多く残されている。太宰府市の市民意識調査(注2)によれば、市民の約80%が「住みやすい」としその理由に、「自然が美しい」を上げている。この地域に居住している大学生もはからずも同じ意識をもっている結果となった。

問2. スポーツ可能度について。

太宰府市には前述のごときスポーツ施設の他に太宰府史跡水辺公園(プール)

また周辺地域には赤坂テニスコート、まどかパーク等さまざまなスポーツ施設が充実しているように見える。しかし市民意識調査によると大学生と同様に低い評価にとどまっている。スポーツ、外食、旅行などは男女を問わずまた年齢を問わず今後も変わらず「やりたい活動」の主流であるに違いない。ハードの充実に伴いソフトとしての利便性—気楽に利用できることが求められている。

問3. 観光宿泊満足度について。

たしかに二日市温泉を除けば、宿泊施設の存在は希薄である。また二日市温泉の入り込み客数は平成2年を境に宿泊客数と日帰り客数が逆転し宿泊客数は減少の傾向が続いている。様々な原因が考えられるが、その最も大きいものとしてアクセスの問題がある。道路が狭い上に（2つの大型旅館をのぞき大型観光バスの旅館横付けが困難）西鉄二日市駅またJR二日市駅からのアクセスが不便である。周辺地域の交通基盤の整備が貧弱であることは市民意識の調査からも低い評価となっている。温泉地としてのイメージアップ、魅力アップの方策が必要と考える。

問4. 知名度について。

92.4%という高い評価となった。前回の調査による（注3）平均値58.6%と比較すると学生にとっては、太宰府は即ち天満宮であり入試合格の神様でしかないとの認識によるものであろう。つまり太宰府の歴史文化等の知名度評価となっていない。

問5. 観光欲求充足度

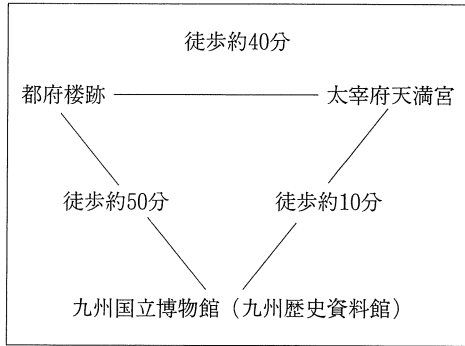
前回の調査による周遊型観光評価の一般観光客評価44.7ポイント（注4）とちかい評価となっている。また住民意識調査の文化施設、レクリエーション施設の利便性評価と同様な結果となっている。

現在の太宰府観光の大動脈は都府楼（政庁）跡—太宰府天満宮であり、そして今後国立博物館が現九州歴史資料館周辺に大規模な博物館として建設される。近い将来に太宰府観光は三大観光地を中心に動いていくと考えられる。

図一Ⅱはその所要時間と位置関係を示している。

現在、都府楼跡から天満宮間を徒歩で調査した結果、次のような問題点が浮上してきた。

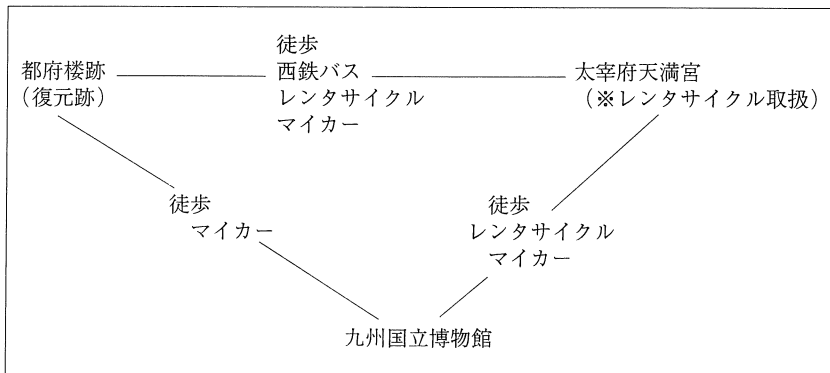
図一Ⅱ 三大観光地間の所要時間



(図Ⅱは現地での実測により作成)

- ①「西鉄都府楼前駅」で下車し「都府楼跡」に行くのにそこには案内板、パンフレット等何もない状態であること。また途中においても案内標識が皆無のため道に迷ってしまう恐れがあること。
- ②都府楼跡一天満宮間は素晴らしい遊歩道が整備されているにもかかわらず、何もない。ベンチも標識(遊歩コース中の位置、距離間系)、トイレも無い。
- ③交通の利便性として天満宮にはレンタサイクルが用意されているが、数には限りがあること。利用者が少ないこと。また元の借りた場所に返しに行かなければならないこと。つまり天満宮で借りて都府楼跡駅で返却できないこと。都府楼跡周辺に駐車場が少ないこと。バスにおいては地元住民でさえ利用が難しく観光客の利用には無理であること。

図一Ⅲ 観光客の交通手段



(図Ⅲは現地での実測により作成)

観光ルート及び交通網整備は観光客にとっては無論のこと地域住民にとっても効果的でなければならないことは言うまでもない。この問題を解決してこそ住民と観光客との友好的文化交流が生じてくるに違いない。

問6. ふるさと度

優れた歴史的文化遺産、歴史のまちのイメージが定着した評価となった。これは住民意識調査でも同様な結果となっている。しかし他県、また他地域にはない第一級クラスの観光資源としての特性が現在においては有効利用されていない結果となった。

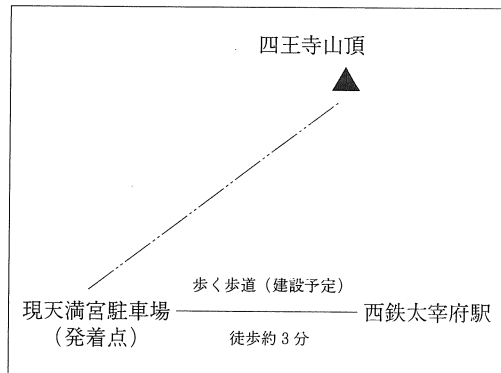
問7. 観光開発度

住民意識調査にも現れていることだが、観光開発には否定的意見が多い。当然のことながら豊かな自然、歴史的遺産を保護し生活環境重視と言う視点が強い。当ゼミでは太宰府で観光開発をドラスティックにするとすればという仮定のもとに「観光ロープウェイ開発計画」を検討した。ロープウェイは現在の観光周遊ルートに大変革をもたらし観光ルートの多様化にまた観光季節変動の縮小に貢献すると考えたからである。

現太宰府天満宮大駐車場（筑紫工業高校下）は有料で観光大型バスやマイカー観光客の利用頻度は高い。し

かし国立博物館に併設される予定の広大な無料駐車場は車の流れ人の流れを大きく変えるに違いない。この理由からこの有料駐車場を起点としたロープウェイ計画となった。ロープウェイ計画の環境整備には様々な高いハードルが存在する。計画の具体的な内容については別稿にて発表する。

図一Ⅳ 太宰府ロープウェイ構想



問8. 温泉度

観光白書をはじめ常に観光行動の目的及び目的地調査のなかで上位を占めている温泉は日本人にとって観光をイメージするためのもっとも重要な要素の一つであることは論をまたない。大学生を他県からの留学生であるという視点からこの低い評価を考察するとそこには数多くの困難な問題点がある。

①アクセスが不便

JR二日市駅、西鉄二日市駅にはさまれ博多駅や福岡天神駅から至近の距離（電車で約20分）という立地が生かされていない。両駅から温泉街までのアクセスが不便であること。

②案内・標識

両駅ともに温泉までの案内板、道路案内がない。温泉に関してのパンフレットがない。道路標識、交通標識も無いに等しい。

③町並みが温泉地の雰囲気醸し出していない。散歩、散策道に工夫がない。

④二日市温泉から他の周辺観光地への交通網が整備されていない。

⑤二日市温泉としてのセールスモーションが希薄である。

主な問題点をピックアップすれば上記の5つとなる。

問9. 観光経験度

残念な結果となった。太宰府天満宮は大学入試の際に、また修学旅行の際に経験したことは容易に想像できる。がしかし留学住民となってからの観光経験がほとんど無いに等しいことである。このことは市民意識調査の「サービス施設への交通の利便性」に対する低評価が原因の一つとなっていることはあったとしても、学生にとっての歴史、文化、自然への探求とは、またその探求を満たすための観光行動とはどのようなものであるかという問題に直面する。

問10. 九州国立博物館（仮称）建設認知度

九州国立博物館建設誘致運動は1964年以来福岡県を中心に太宰府市でも官民一帯となって長年取り組んできたもので、その規模はアジア随一といわれる壮大な計画である。福岡市天神の中心にある福ビル正面に「九州国立博物館を誘

致しましょう」の広告が長年なされ、誘致署名運動も活発であった（ここまでするのはですかという文部官僚の発言があったといわれている）。太宰府市においても多くの講演、イベント、広告がなされている。今回この学生による低い評価は端的に地元住民と留学住民である学生との意識の差を表している。

3-2 総合評価

太宰府市による「文化の振興に関する市民意識調査」（1995）によれば、歴史的遺産の保存、整備だけでなくそれを生かしながら現代の市民生活にプラスになる方向を求めている結果となっている。（関係資料添付）

ここでは文化の振興を進めながら「生活の質の向上」を計りたいとする市民の姿勢が伺える。それは①余暇活動、文化活動での「生きがい、充実感」としてまた②では旅行、スポーツ、趣味カルチャーの願望として、表れている。また③④では歴史的遺産の重要性を認識し、自然環境の保護管理にも積極的理解を示している。また従来型の質を問わない公共施設でない利便性のある誰もが利用できる文化施設を求めていること、また同様に利便性のある情報が提供されていないこと、文化的、観光的交流の場が少なく個人が参加活躍できるシステムができていないこと等である。

一方、留学生である在住学生はあくまで留学生であることの姿勢を崩していないように見える。それはこのアンケート調査の主体である住民であり且つ学生（留学生）の観光行動の実態が住民としての部分を欠落したまま、いわゆる観光客的無責任性を帯びた観光文化への対応となっている。

問1～問10を通していえることは学生が得ている情報が生の、つまり生活の場としての生きている情報でなく、いわゆる一般観光客に流されている情報のレベルに留まっていることの問題性である。問1では自然環境は優れていることを認知しながら実際には観光的には享受されていない。問2ではスポーツ施設がまた自然公園があることさえまた問5の観光スポットがあるさえ知らされていない。又は、知る欲望さえ持ち合わせていない学生像が浮上してくる。

結局は中学または高校の日本史で学習した僅かな、教科書半ページ程度の認識

以上にはなっていないことである。情報の交流が、なんらかの理由によって疎外されているのではないだろうか。そして彼らは現代の学生気質と言ってしまえばそれまでのことだが、けっして地域住民と同化もしくは協力関係にあらうとしていないことである。このことは、地域住民においても同様である。1つには、過去におこした学生の不祥事をいつまでも気にしている地域住民の偏見の先入観。2つには、相互交流の場がまた情報交流が積極的でないこと。3つには、地域住民から学生の倫理的質の向上が求められていること。4つには「生活の質の向上」を享受できる能力を高める方策がとられていないことである。これらの点において地域住民と学生との間にコンフリクトが生じてきているとかがえられる。

むすび 新しいルネッサンス—新しい観光

古代社会においては科学も技術も、移動（旅行）も文化も、すべてが人間の生命や生活つまりライフと一体であった。しかし長い文明の歴史の中で人間だけが持っている新奇な能力、情報を集め蓄積し細分化し操作をする能力はライフをも分化分離してしまった。わが国においても経済の発展とともに「文化のないエコノミック・アニマル」や厚生省を頂点とする「医学を金銭獲得の手段とした薬害」「老人保護を金銭としてしまった贈収賄」などに象徴される非人間的な社会が日常となっている。また行政やビジネスの失敗のツケを財政に回す「モラルなき時代」の兆候も現れている。しかし一方では「持続可能な観光」、「希望を分かち合って生きる生活・生がよい」「生涯学習」、「ボランティア」など人間復興の探求も盛んである。

ルネッサンス期にはイタリアルネッサンスにおいても現存の社会的影響を受けながらも強い規制から離れて、事実に基づいて実行・行動する、それは決して科学的でないにしても実行・行動しようとする自立の精神がうまれてきた。人間本位の傾向＝人文主義である。その後、経済学ではアダム・スミス、ラスキン、モリス、センの流れのなかで人間社会は第二、第三の人間復興の波を経験することになる。そして今新しいルネッサンスの息吹きがきこえてくる。

現在、旅行によって、いや観光によって文化的欲求を充足しようとしている人々のニーズと共感と生きがい、共生と感動を見出しえる地域を設計し供給しようとする人々との「出会い」「交流」が「地域の活性化」「地域の固有価値を活かす」キーワードを通してさかんに求められている。

「ボランティア・ガイド」「ホームステイ」また「祭り」「イベント」そして「自然環境、歴史的文化遺産の保護」などが人々の「生活の質の向上」の糧として認識されてきたのである。「生活の質の向上」の欲求は物質的充足から精神的充足へ、またもの作り立国から交流立国、観光立国へと現存の困難な壁に阻まれながらもものりこえようとする波がつつぎと生まれてきている。このことは人々が価格を中心に経済を考えた時代から「人間の尊厳」「人間の個性」を中心に人々の生活の質の向上の開発によるマーケティング発展の時代に入ってきていることを示している。住民意識調査と学生アンケート調査の狭間には新しいルネッサンスへ向かう過渡期とも言える様々な^{CONFLICT}コンフリクトが存在していた。

しかしこのコンフリクトは「人間が生み出す多様な知恵と新しい観光的文化的な生活方法」の教育また訓練的学習によって急速ではないにしても次第に解決できるだろう。現代の観光はまさに「新しいルネッサンス」の扉を開き発展させる鍵となるにちがいない。

注・参考文献

- つくし青年会議所（1988）つくし風土記（株青柳工業）
 太宰府観光協会（1997）太宰府
 太宰府市教育委員会（1994）水城跡
 福岡県総務部地方課（1996）福岡県市町村遊覧
 太宰府市（1994）太宰府市統計書
 筑紫野市（1995）筑紫野市統計書
- 注1 第一経大論集 第25巻 第3・4号（1997）
 「21世紀における太宰府周辺地域の観光の展望と観光コンフリクト」
- 注2 「市政だより」太宰府市 No.571（1995）
- 注3 第一経大論集第25巻
 「21世紀における太宰府周辺地域の観光の展望と観光コンフリクト」「好感度・知名度」
- 注4 同上 「好感度・欲求充足度」

☞ アンケート調査のお願い（観光リゾート研究 吉川ゼミ）

※この調査は太宰府及びその周辺の観光振興の研究調査目的のためだけに用いるものです。
忌憚きたんのないご意見をお願いします。（記入方法：YesかNoどちらかを○で囲む）

☆1. 太宰府のもつ自然環境は優れていると思いますか？ Y e s ・ N o

☆2. 太宰府はスポーツやレクリエーションを楽しむのに施設や立地条件の上で優れていると思いますか？ Y e s ・ N o

☆3. 太宰府はホテルや旅館・民宿・国民宿舎など宿泊施設が多いと思いますか？ Y e s ・ N o

☆4. 太宰府は全国的に有名だと思いますか？ Y e s ・ N o

☆5. 太宰府は各観光スポットへのルートが発達していると思いますか？ Y e s ・ N o

☆6. 太宰府の人々がつくり上げてきた風俗や文化は優れていると思いますか？ Y e s ・ N o

☆7. もし四王寺山にロープウェイがあれば利用したいと思いますか？ Y e s ・ N o

☆8. あなたは二日市温泉を利用したことがありますか？ Y e s ・ N o

☆9. あなたは太宰府及びその周辺の観光地でどこに行ったことがありますか？二つ以上書いてください。

--	--	--	--

☆10. あなたは九州国立博物館が来年秋から太宰府に建設予定であることを知っていますか？ Y e s ・ N o

◎ 太宰府及びその周辺について何か御意見がありましたら御自由にお書きください。

今回のこのアンケートは、第一経済大学のあるクラス79名を対象に行ったもので、結果は以下の通りです。

アンケート調査結果

1年生	2年生	3年生	4年生	学年不明	TOTAL
0名	40名	23名	1名	15名	79名

	YES	無回答	NO		YES	無回答	NO
問1	62名	1名	16名	問6	66名	1名	12名
問2	26名	1名	52名	問7	46名	1名	32名
問3	18名	0名	61名	問8	28名	0名	51名
問4	73名	0名	6名	問10	21名	3名	55名
問5	32名	2名	45名				

学 年 別

2年	YES	無回答	NO		YES	無回答	NO
問1	35名	0名	5名	問6	37名	0名	3名
問2	14名	0名	26名	問7	27名	1名	12名
問3	10名	0名	30名	問8	13名	0名	27名
問4	38名	0名	2名	問10	11名	0名	29名
問5	15名	1名	24名				

3年	YES	無回答	NO		YES	無回答	NO
問1	15名	0名	8名	問6	18名	1名	4名
問2	4名	1名	18名	問7	10名	0名	13名
問3	4名	0名	19名	問8	10名	0名	13名
問4	23名	0名	0名	問10	8名	2名	13名
問5	11名	0名	12名				

4年	YES	無回答	NO		YES	無回答	NO
問1	1名	0名	0名	問6	1名	0名	0名
問2	1名	0名	0名	問7	0名	0名	1名
問3	0名	0名	1名	問8	0名	0名	1名
問4	0名	0名	1名	問10	0名	0名	1名
問5	1名	0名					

問9 あなたは太宰府及びその周辺の観光地でどこに行ったことがありますか？
二つ以上書いて下さい。

問9の結果

場 所 名	2年生	3年生	4年生	?年生	合 計
太宰府天満宮	34名	12名	1名	13名	60名
太宰府政庁跡	10名	6名	0名	1名	17名
二日市温泉	5名	3名	0名	2名	10名
四王寺山	0名	3名	0名	2名	5名
だざいふえん	3名	1名	0名	0名	4名
宝満山	1名	0名	0名	2名	3名
観世音寺	1名	0名	0名	1名	2名
<small>かまど</small> 竈門神社	1名	0名	0名	1名	2名
九州歴史資料館	1名	1名	0名	0名	2名
武蔵寺	1名	1名	0名	0名	2名
水城跡	2名	0名	0名	0名	2名
天拝山	1名	0名	0名	0名	1名

見て分かる通り上位4か所は、太宰府の観光開発において重要な場所という結果になりました。

第1位 太宰府天満宮

第2位 太宰府政庁（都府楼）跡

第3位 二日市温泉

第4位 四王寺山

— 「文化の振興に関する市民意識調査」の結果から —

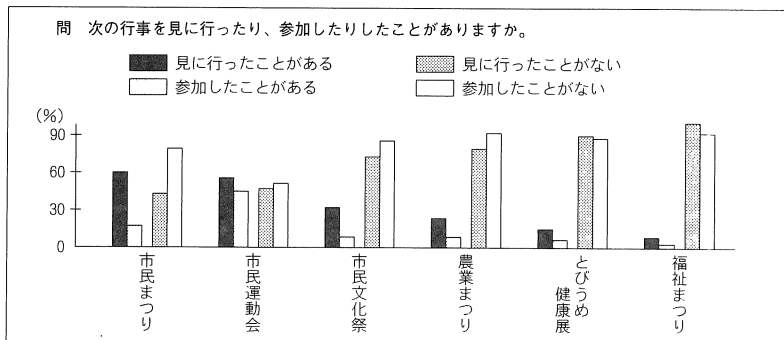
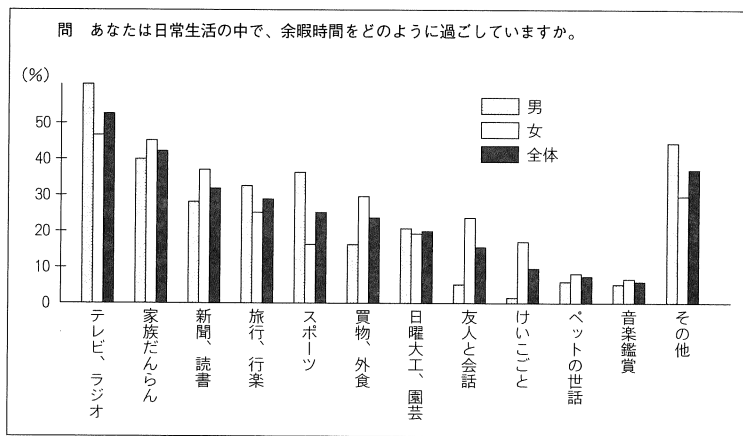
出所：「市政だより」No.571 太宰府市（1995）

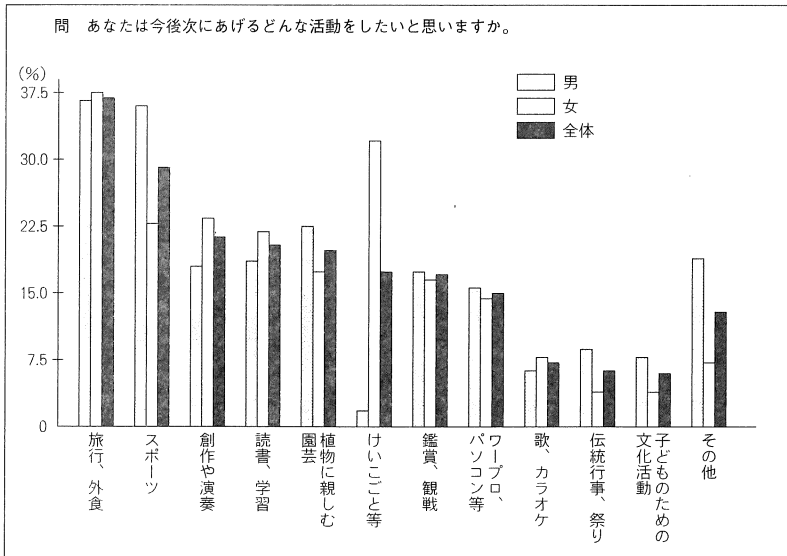
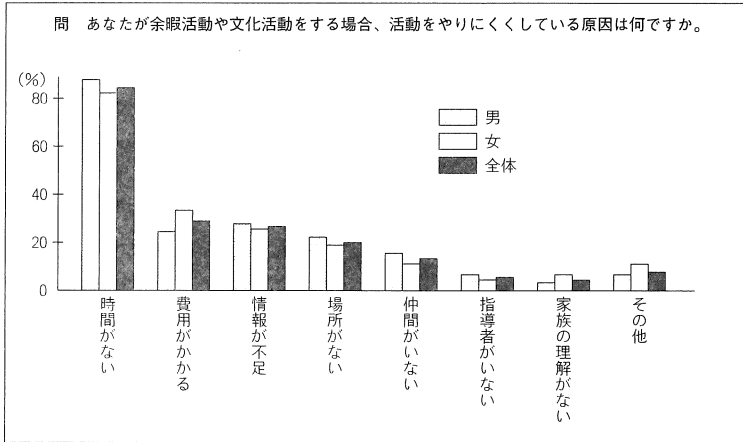
調査回答者の内訳

調査に協力し、回答をいただいた1042人の皆さんの内訳を項目別割合で見ましょう。

性別では、男性44.2%に対し女性が55.8%、年齢別では多い順に40歳代（31.8%）、50歳代（23.4%）、30歳代（16.4%）、20歳代（15.6%）、60歳代（12.8%）です。また、太宰府市での居住年数別では、多い順に10年～20年（33.8%）、20年～30年（21.2%）、5年～10年（18.9%）、1年～5年（15.3%）、その他（10.8%）です。職業別では、多い順に事務、技術（33.5%）、家事（20.4%）、パート（10.9%）、自由業（10.6%）、現業職（7.8%）、無職（6.4%）、商工自由業（5.5%）、学生（2.5%）、農林業（0.8%）などです。

① 余暇活動、文化活動





② 文化財の保護と活用

重要な文化財の知名度

単位：％

文化財	よく知っている	大体知っている	あまり知らない	聞いたこともない	行ったことがある	行ったことがない
太宰府(政庁)跡	12.4	69.0	16.9	0.6	85.6	8.5
水城跡	8.9	56.0	29.4	2.8	61.6	31.2
大野城跡	4.7	34.7	44.7	12.1	38.6	53.7
観世音寺	10.6	64.9	21.9	1.4	78.8	15.5
戒壇院	8.3	47.7	32.6	8.9	56.5	36.5
筑前国分寺跡	4.5	31.4	46.8	13.3	37.2	55.2

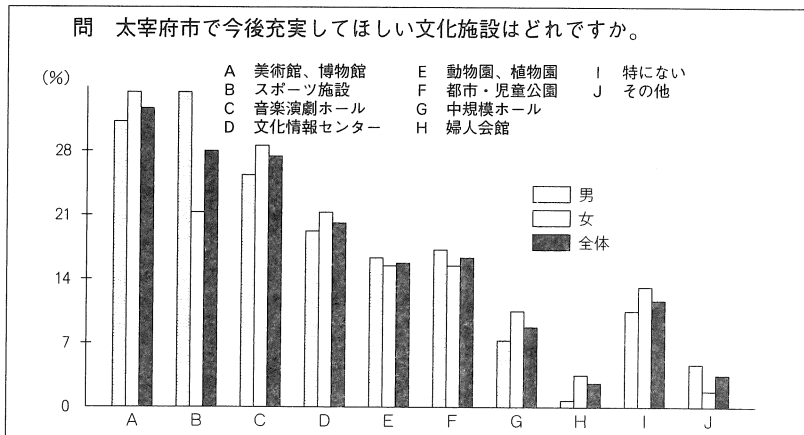
③ 文化振興

今後力を入れてほしいこと

(複数回答) 単位：％

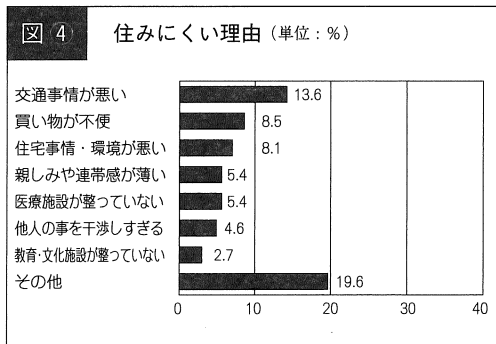
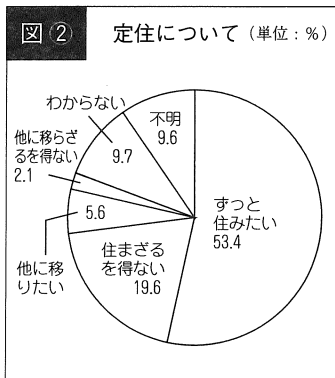
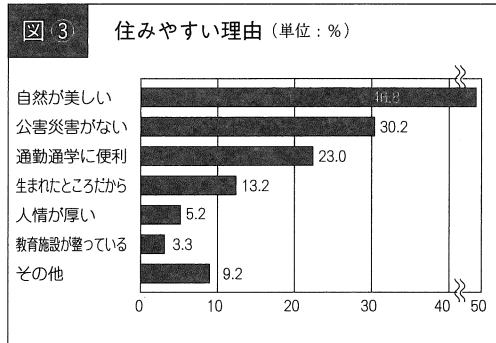
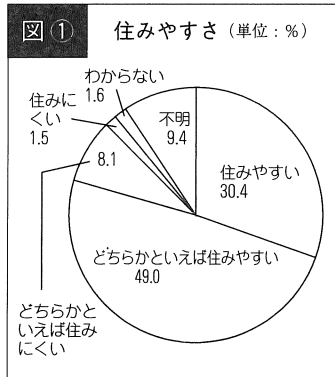
文化振興の力点	男性	女性	全体
これ以上自然や環境が壊れないようにする	61.4	64.7	63.2
市民がもっと気軽に参加できるような行事を行う	30.6	27.2	28.7
文化に関する行事等について情報の伝え方を研究する	26.7	29.3	28.1
文化財の保護・保全にいっそう力を入れる	29.9	24.1	26.7
文化施設をもっと充実する	17.1	17.6	17.4
地域の伝統行事や習俗の復興に力を入れる	13.9	10.7	12.1
文化施設にもっと市民の意見を取り入れる	10.6	12.0	11.4
文化に関する講座や教室などをもっと増やす	7.4	14.1	11.1

問 太宰府市で今後充実してほしい文化施設はどれですか。

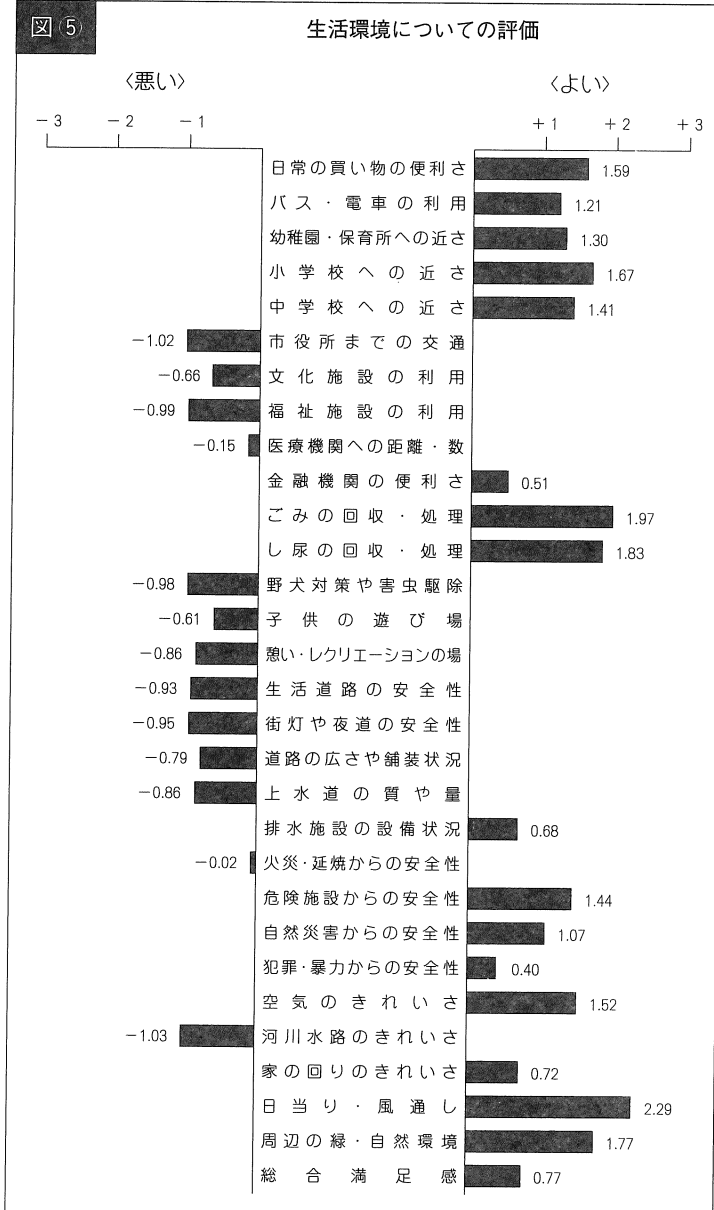


太宰府のイメージは 歴史のまち

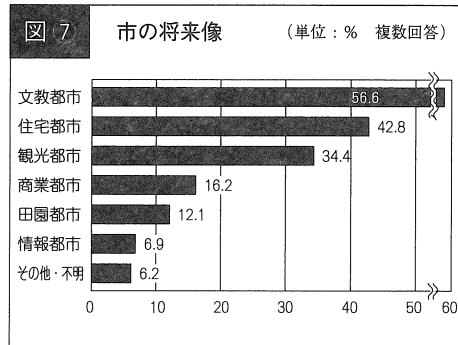
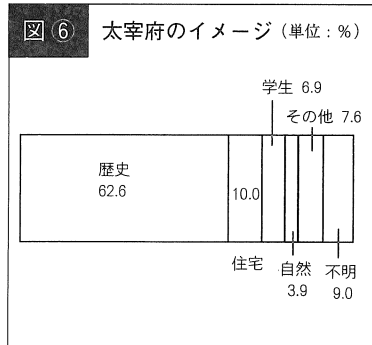
① 住みやすさについて



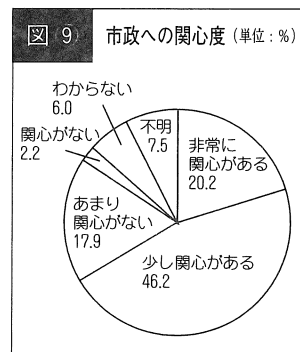
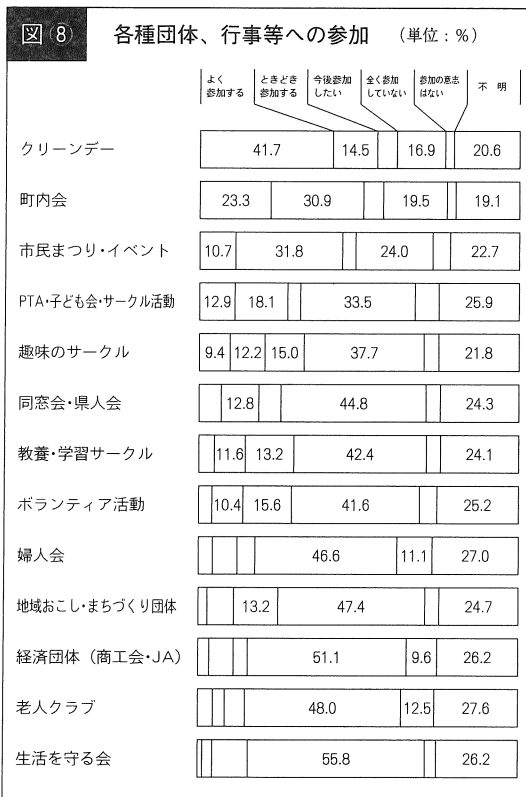
② 生活環境について



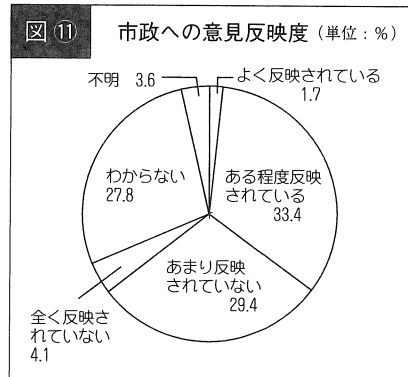
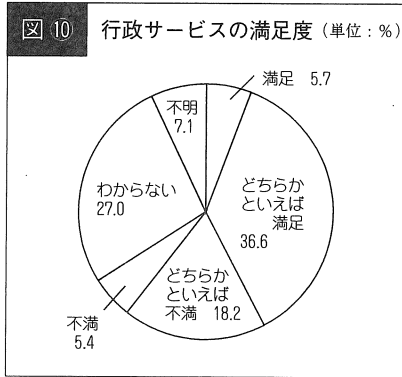
3 市の将来について



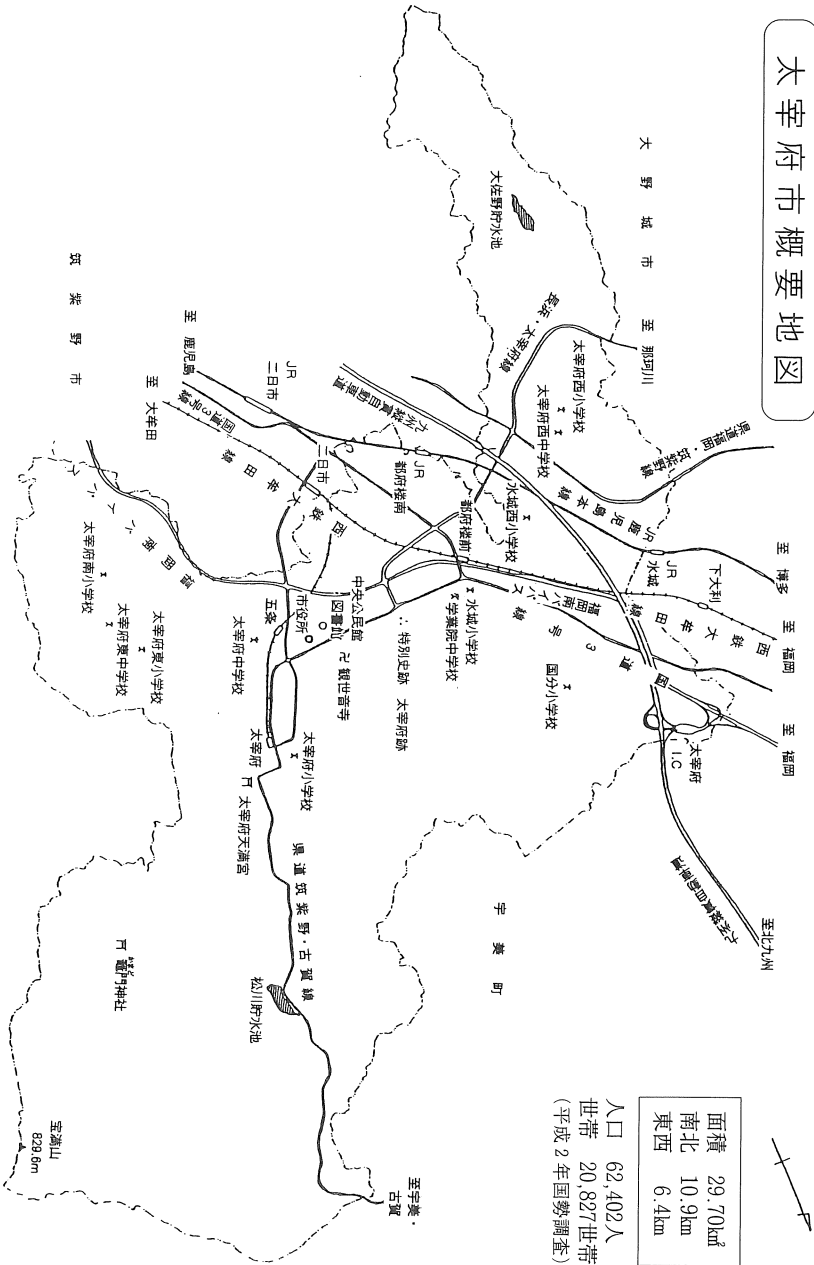
4 社会参加について



5 太宰府市政について



太宰府市概要地図



面積	29,70km ²
南北	10.9km
東西	6.4km

人口 62,402人
 世帯 20,827世帯
 (平成2年国勢調査)

至宇美・古賀

至蒲山 829.6m